

機関番号：12603

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520054

研究課題名 (和文) イスラムのグローバル化による「イスラム共同体」の構造的変化についての研究

研究課題名 (英文) Globalization of Islam and Structural Change of 'Muslim Community'

研究代表者八木 久美子 (YAGI KUMIKO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90251561

研究分野：

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：イスラム、イスラーム、グローバル化、世俗化、聖職者、権威、俗人

1. 研究計画の概要

この研究で明らかにしようとしているのは、世界を包み込む現象としてのグローバル化が、イスラムの伝統的な世界認識の枠組みをどのように変え、その結果としてイスラムのダイナミズムにどのような変化が生まれているかという点である。グローバル化に伴い、「イスラム共同体」の伝統的な構造が根底から覆されようとしていることによって、イスラムは新たな意味での普遍化に向かっているというのが、本研究の仮説である。

ここで言う「イスラム共同体」の伝統的な構造とは、世界はイスラム的規範の支配する「イスラムの家」とそれ以外の「戦争の家」に二分されるという認識の上に立ち、「イスラムの家」の中心であるアラブ・中東世界の（イスラム諸学の専門家である）ウラマーに一般の信徒には持ちえない特別な権威が認められ、彼らがイスラムの舵取り役を担ってきたというしくみである。

しかしながら、今日、人（イスラム教徒）も（イスラムの専門的知識を含めた）情報もあらゆる境界線を越え地球上に広がっていくなかで、このような伝統的な枠組みは大きく揺らいでいる。伝統的には「戦争の家」とネガティブな位置づけをされてきた地域に生きるイスラム教徒の間から生まれた運動、また地域を問わずウラマーではなく一般信徒が担い手となる動きが、世界中のイスラム教徒に大きな影響を及ぼしていることがその証拠である。イスラムの現状あるいはその未来を論じるにはアラブ・中東世界の代表的なウラマーの発言に耳を傾ければよいとい

う発想の修正が急務となっており、本研究はその点に貢献すると考えられる。

2. 研究の進捗状況

20年度は、インターネットや衛星放送という新しいメディアを駆使して、世界の広い地域で活躍する二人の「俗人説教師」の活動に焦点を当てた。

その言説を詳細に見ると、「イスラムの家」と「戦争の家」という伝統的な枠を二人が全くと言ってよいほど無視していることがわかった。その人の意思次第で、イスラム教徒はどこにいてもイスラム教徒として生きることができるとし、伝統的なイスラムの世界観を覆す言説を確立しつつあることが明らかになったことは大きな成果である。

21年度は、「俗人説教師」がウラマーとは認められないにもかかわらず、なぜ職業的な宗教家として存在しうるのかという点から、イスラムにおける権威の問題を取りあげた。

そこで明らかになったのは、グローバル化が進行するなかで、イスラム教徒の生活様式や価値観も多様化し、それに従って生まれてくる新しいニーズに答えているのが「俗人説教師」であるということ、および「俗人説教師」たちは高度に西洋化した彼らの支持層にとって、自分たちの生活様式や価値観を真に理解する唯一の宗教家と受けとめられ、その意味である種の「権威」が付与されているからであるということの二点である。

22年度はウラマーという概念の再検討を

行い、近代以降、国家が一元的に宗教を管理する体制が確立するなかで、「聖職者」化していったという事実を確認した。これによって明らかになったのは、近年の「俗人」による活発な宗教運動は、ウラマーの「聖職者」化というようなイスラムという宗教が持つ包括性とは矛盾する流れへの対抗として捉える事が出来るという点である。

またビジネスの世界に通じている人間が「説教師」として活躍している事例等が端的に示しているとおおり、政治化したイスラムとは別に、日常生活の細部にまでイスラムを（再び）注ぎ込もうとする動きが一般信徒の間で顕著であることを明らかにできたのは大きな成果である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初の計画とは研究の対象や順序に若干の変更があるが、成果は順調に上がっている。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの作業の中で注目すべき点として浮かび上がってきたのは、ウラマーであれ、「俗人」説教師であれ、専門家あるいは職業的宗教家と呼べる人々の枠を超え、たがいに棲み分けをしながら、しかし互いに力を貸す形でグローバル化時代の要請に応えようとする動きが生まれているという点である。

23年度は、グローバル化により選択肢が飛躍的に拡大した市場のなかで、「イスラム的」性格を帯びた商品を求めるといような、消費行動におけるイスラム志向の高まりに着目したい。そうすることによって、生活者である一般信徒の行動が新しい「イスラム性」を築き上げていくプロセスについて明らかにしていきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①八木久美子、「多様化するイスラムのかたち—『俗人化』のもたらす可能性」、『総合文化研究』vol.13、p.119~p.134、2010年、査読無

②八木久美子、「イスラムの『俗人』スター説教師」、『東京外国語大学論集』、77、p.117-p.133、2009年、査読有

③八木久美子、「生活者のイスラム—エジプトの

例を中心に」、『現代宗教』、2011年号、p.241~p.257、2011年、査読無

〔学会発表〕（計2件）

①八木久美子、「New Muslim Preachers as an Aspect of Re-Islamization」、XXth World Congress: International Association of History of Religions, 19 Aug. 2010, University of Toronto

②八木久美子、「俗人」説教師の活躍とイスラムにおける権威の問題、日本宗教学会、2009年9月12日、京都大学